



たぐすい

TAKUSUI

2002 JANUARY No.543

1

新年のご挨拶

COLUMN

◆ 早春の味わい ◆

アスパラガスは、以前は岳話のホワイトアスパラが主流だったから、野菜の三白（セロリ・カリフラワー）と呼ばれていたが、今はグリーンアスパラが好まれていた。一度植えておくと、毎年若芽が吹き出て、大いに重宝するが、出たばかりの幼芽を摘み取る時、一寸申し訳ない気もする。若い芽を食用とする山菜に、タラノキがある。山菜の王者とされ、あの歯応えと独特のほろ苦い風味が愛される。別名トリトリノフスの通り、幹から枝、葉にいたるまで一面の棘で覆って武装してはいるが、いとも簡単に若芽をもぐ事ができる。タラの芽は天麩羅にして、熟々の所へ少し塩をつけて食べると絶品の味なのである。

長野県の俚諺に「山でうまいはオケラにトトキ、里でうまいは瓜、ナスビ」とある。トトキはツリガネニンシンの別名で、初秋に淡紫色の釣鐘状の花をつけるキキョウ科の多年草。オケラはキク科の多年草で、やや乾いた草原や雑木林に自生する。大晦日の夜、京都祇園の八坂神社で火を焚く「オケラ参り」という行事がある。その時に火にくべるのがオケラ（白朮）で、秋にアザミを小さくした淡紅色の混じる白い花をつける。春に若芽を摘んで山菜料理とし、和えもの・浸しもの揚げ物にして戴く。癖がなくて灰汁が少ない。数年前、木曾路の宿で食べた春の味を思い出している。

自覚していた正岡子規を、河東碧梧桐が見舞った。荒川堤で摘んだツクシを手土産にしている。子規は碧梧桐の話に興を感じ、ツクシの歌を十首あまり詠んだが、その歌の前書きに「つくしほど食うて旨きはなく、つくし取りほどして面白きはなし」と記した。そして同年九月、三十五歳で永眠する。病床六尺に呻吟しつつも、草花を写生し、歌を詠み、自らを慰めた短い生涯であったが、そのままが掛け替えのない作品となっていた。今年もツクシを摘みたいと思つ。毎年、同じ土手で、箆に一杯摘み、爪先を黒くして八カマを取り、油炒めか煮浸しにして戴くが、子規も愛した春の味だ。何時までも、かく有りたいと願つ。（遊方子）

明治三十五年の早春、再起不能を

COLUMN 2

早春の味わい

新年のご挨拶 3

小川 守男 井戸 敏三
小西 一弘 小野 順三
丹下 勝義 植村 正治
部原 政夫 吉野 生壯
吉岡 修一

トピックス 8

農林水産省農村振興局長賞受賞「たこめし」

旬の美味い話 8

たこの佃煮

水試ノート 9

ソテイカ「あかい」の資源・生態調査について

栽培漁業センターです 10

海区漁業調整委員会だより 11

普及員だより

21世紀は女性の時代

兵庫JCC通信

J A - JA高齢者福祉事業
トップセミナーを開催
生協「職場における男女共同参画をすすめるために」をテーマに兵協連生活問題研究会「公開学習会」を開催

拓水Promenade 13

巻末エッセイ「馬について考える」

編集後記

謹賀新年 14

こちら海ですロケだより 16

清流・千種川70年の旅
〈千種町・南光町・佐用町・上月町・相生市・赤穂市より〉

「シクラメン」

フォト歳時記

冬を彩る鉢植といえば、シクラメン。地中海原産で、原種は茎がぐるりとまるまっていたため「Cycle」から名が付けられたようです。その球根の形から「豚の饅頭」とも呼ばれる一方、和名は「篝火花（カガリビバナ）」。花びらが上に反り返っている様子、特に真っ赤な品種にはお似合いの名です。最近人気のパステル系には、ショパン、ハイドン、シューベルトなどと名付けられ、「音楽家シリーズ」と呼ばれているようです。

さて、シクラメンと言えば、小椋佳作詞・作曲の「シクラメンのかほり」。年末の某歌番組で、久々にお聞きになった方もおられることでしょう。ところが一部の品種を除き、シクラメンにはほとんど香りがありません。品種改良が重ねられた結果、香りを失ってしまったのです。愛でるあまり、人は自然に残酷な仕打ちをしているのかもしれない。

今月の表紙



「拓水」はJFとJFグループを結ぶ「ミニユニオン」の場です。報知したいこと、文芸など、みなさんの投稿を大歓迎いたします。

裏面の発行所「拓水係」宛送付ください。



新年のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会

代表理事会長 小川 守 男

新年明けましておめでとうございます。平成十四年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

二十一世紀は、「環境の時代」といわれており、自然を破壊し高度成長を成し遂げてきた時代から、自然を守り環境保全に対する取り組みが今後の大きな課題となっております。

また、アメリカにおける同時多発テロの発生で、世界的なテロ対策や景気の後退が懸念されるようになってきました。国内の状況を見てみると、政局の方では大きな変革が見られ、長引く景気低迷や政局の不安から、景気の回復や政局の安定を求める国民の圧倒的支持に押し寄せ、支持率が非常に高い小泉内閣が新たに誕生し、今後の政局の動きに期待を寄せているところがあります。

また、国内の景気については、銀行の不良債権処理絡みによる上場企業の大型倒産が発生したりデフレによる倒産等で、失業率も5%を超える水準にまで達しており、景気はますます悪化していくことが懸念され、さらに厳しい状況が続くものと予想されております。

一方、水産業界をみると、水産資源の減少に加え輸入水産物の増加やデフレ傾向による魚価安等により、漁家経営は前年に引き続いて逼迫しており、JF（漁協）の運営にも大きな影響が出てく

るような状況となっております。

また、六月には、水産業界の永年の悲願でありました「水産基本法」が国会を通し制定の運びとなりました。この基本法の施行によって、国民に対して健全な食生活等の基礎としての重要な水産物を、将来にわたって安定的に供給するため、水産資源の適切な保存管理と増養殖の推進を行い水産資源の持続的利用の確保を図るとともに水産業の健全な発展を行っていくことが法律で定められ、水産業界にとつて新たな門出の年となりました。

こうした状況を踏まえ、水産業の健全な発展を図っていくためには、JFの果たす役割が大きく、JFの基盤強化が急務と位置付けられ、JF合併の促進が不可欠となっております。

本県においてもJFの基盤強化を目的としたJF合併を促進しておりますが、現在のところ合併に至ったケースはないものの、合併の先陣を切つてJF兵庫漁連・JF兵庫信漁連・共済組合の常勤理事以外の役員を共通とする共通役員制の導入に取り組み、六月の三団体の通常総会で承認され、実施の運びとなりました。

共通役員制の導入によって、今までは三団体がそれぞれ個別に対応してきたことが、三団体が共通した認識として取り組むようになっており、本県JFの基盤強化のための合併促進に大いに寄与していくことが期待されております。

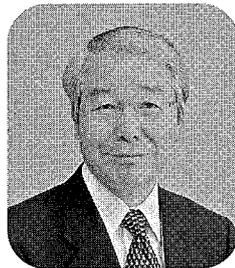
また、県下水産物の付加価値向上と浜

値安定に寄与することを目的に建設を進めてまいりました水産加工センターが四月に竣工し稼働が始まっております。今後は、新商品の開発および販路の開拓等に取り組み、積極的な運営に心がけ、JFの基盤強化にも繋がるよう寄与していきたいと考えておりますので、JFの協力をお願いいたします。

本年度は、自他ともに認める運営基盤が強固なJFの実現を目指し、役員員並

びにJFグループ兵庫（系統団体）が一丸となつて対応していくことはもとより、瀬戸内海・日本海とも順調な生産と安定した価格が維持でき、漁家やJFに笑顔が戻り活気あふれる漁村社会が構築できることを期待してやまない次第であります。最後になりましたが、会員各位並びに県ご当局・JFグループのますますのご繁栄と皆様方のご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

美しい兵庫 づくりをめざす



兵庫県知事 井戸 敏三

あけましておめでとうございます。昨年は、アメリカでの同時多発テロ事件をはじめ、国内外でさまざまな出来事がありました。

兵庫県も、厳しい経済雇用、児童問題、環境、農業など、多くの課題に積極的に取り組んできました。

いま私たちは、成長から成熟へ、そして地球規模での共生社会づくりへ向けた、大きな変化のなかにあります。

こうした時代の要請にこたえ、新しい世紀を迎えたふるさと兵庫の発展をめざさねばなりません。そして、

まず、県民の将来への不安を解消し、生活の安全と安心を確保しなければなりません。

健康づくりや子育て支援、しごとづくりや自然の再生を進め、事故や犯罪、災害から県民生活をまもっていくためには、一人ひとりの自由な発想と責任ある行動を基本に、県民と行政がともに手を携えていくことが大切です。

「参画と協働」の県政は、そのよ

うな考え方にたつて、ここ兵庫の地から、成熟社会にふさわしいわが国のあり方を示していこうとするものです。

今年、いよいよ長期ビジョンの推進プログラムがスタートします。県民の皆様と一緒に、ふるさとを誇りがもてる「美しい兵庫」づくりをめざします。

ともに歩んでいきましょう。

新しい年を迎えて



兵庫県農林水産部
農林水産局水産課長
小西 一弘

明けましておめでと〜ございませう。
浜の皆様には、ご家族お揃いで清々しい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

新しい年が輝かしい希望と飛躍への期待に満ちた歳月となりますよう心からご祈念申し上げます。

顧みますと、昨年は大型倒産、リストラの言葉に象徴される景気の長期低迷、アメリカの同時多発テロ事件など暗い話題の多い中であつて、敬宮愛子内親王のご誕生や野依名古屋大学教授のノーベル化学賞受賞など年の後半には心和むうれしい話題も多かったように思います。

水産関係に目を向けましても、一般のニュースにも大きく取り扱われた有明海のノリの色落ち現象は、本県の漁場においてもかかつてない規模で発生し、のり漁期後半に大きな被害をもたらしたことが、かねてより懸案となつていた日韓新漁業協定に基づき設定された暫定水域での操業ルールについて、海域・期間の限定はあるものの、日韓両国漁船の交代操業の合意など一年を振り返ると様々なことがありました。

また、国では六月に今後の我が国の水産政策の指針となる「水産基本法」が制定されました。この水産基本法は水産業を取り巻く厳しい環境を踏まえ、「水産物の

の安定供給の確保」と「水産業の健全な発展」を新たな政策理念として、水産政策の再構築が行われたものです。

県においても、二十一世紀初頭のひょうごの農林水産業・農山漁村づくりに向けたビジョンとして四月に「ひょうご農林水産業ビジョン二〇一〇」を策定し、水産業においては①水産資源の持続的利用体制の確立②担い手づくりの推進と経営基盤の充実③つくり育てる漁業と連携した水産基盤の整備等を柱とした生産振興を進めることとしております。

このような中で、JFグループ兵庫が統一した意思で一体的な運営を進め、系統全体の総合力を発揮していくために共通役員制が導入され、広範に渡る熱心な論議を重ねられておられるところです。

私たちも、水産業を発展させ、次世代に引き継いでいけるよう力強い水産業と活力に満ちた漁村の形成を図るため、皆様方とともに真摯な議論を重ねていきたいと考えておりますので、さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご活躍とご健勝を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新春を迎えて



兵庫県農林水産部
農林水産局漁港課長
小野 順三

新春を迎え、本県水産業関係者の皆様の益々のご健勝ご発展を心よりお慶び申

申し上げます。

さて、昨年は同時多発テロ事件や狂牛病問題などにより、国内外ともに大きく揺れた年でした。とりわけ長びく景気の低迷と、消費者の購買意欲の減退は、本県の漁業経営にとって非常に厳しいものがありました。

しかしながら二十一世紀の初頭を飾るにふさわしく、四月には妻鹿漁港においてJF兵庫漁連の最新鋭水産加工施設が本格稼働を始め、本県産多獲性魚の加工品開発と、安心・安全で質の高い加工品の数々を消費者に提供する事業が堅実に業績を伸ばし、また、日本海漁業にあつては、懸案の暫定水域での操業をめぐる、関係者の懸命なご努力によって事態解決に一歩前進を見たことは、将来展望にひと筋の光明を見出したと申せましょう。

さて、漁港整備の分野では漁港漁場整備法が制定され、長期的な視点に立つ新たな施策展開が始まりました。安全・安心で暮らしやすい漁港漁村づくりと、海心の豊かな漁場整備とを一体的・総合的に推進しようとの新しい考え方による水産基盤整備事業がいよいよスタートしたのです。

これは、地域全体の視野に立った整備を進めると同時に、事業投資の透明性と効率性を確保し、施策の目標を明確にすることに、より効果的な事業展開を図ろうとするものです。

さらに構造改善事業その他の非公共事業を有機的に組み合わせ、漁業者の要望や年々複雑化する課題に対して、柔軟で迅速な対応が可能となりました。

県では新しい県民局体制のもとに水産関係者はもちろんのこと、地域住民との

「参画と協働」の理念に立脚し、より一層水産業の活性化を積極的に推進してまいりたいと考えます。

ところで、「環境の世紀」と呼ばれる今を生きる私たち。地球環境の保全が国際的な課題となつており、無関心ではいられません。

昨年十一月に開催された第五回エメックス会議では、JFグループの環境保全への熱心な取り組みが国際展示場で大きく紹介され、高い評価を受けました。私も漁港課でも環境配慮型構造物の模型展示等、環境にやさしい漁港事業の新しい提案をさせていただきました。

これからの漁港漁村づくりには、漁村集落排水処理施設をはじめ環境整備事業、環境美化運動を皆様とともに進めることにより、美しい自然に恵まれた漁港漁村の環境を守り、そして安心、安全で快適な漁港づくりを幅広く推進することが重要です。

一方、漁港や海岸等に無秩序に係留・放置されているプレジャーボートの整理と、漁港利用秩序の確立を図ることも喫緊の課題です。これまでも異なり、漁港区域にある放置艇は管理者の手で移動、保管、処分する道が開かれ、同時にそれらの適正収容施設の整備なども漁業関係の皆様と協議しながら、具体的な対策を進めます。

さらには漁港海岸保全事業が第六次長期計画の最終年度として、いわば総仕上げの年を迎えました。

このように、平成十四年は漁港漁村整備や海岸事業の大きな節目の年、新たな出発の年と申せましょう。

たくさんの人々と豊かな海の幸がふれ

あい集う漁港。安心・安全で快適に暮らせる漁村。夢や希望と活気あふれる漁港。漁村づくりに、職員一同、全力で取り組んでまいります。

本県水産業のさらなる発展と飛躍を願ってやみません。

新春を迎えて



兵庫県立
水産試験場長
丹下 勝義

明けましておめでとうございます。
平成十四年の年頭にあたり謹んで新年のお慶びを申し上げます。日頃より試験研究の遂行、推進に対しましては温かいご支援とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。本年もよろしく願います。

さて、昨年を振り返ってみますと、栽培漁業関係では、種苗生産はいずれの魚種も目標どおりの成績を上げることができました。中間育成もお陰をもちまして概ね良好な成績にて放流へつなぐことが出来ました。クルマエビの種苗生産において発生が懸念されていたウイルス性病(PAV)については、更なる研究と検査精度の向上により防疫対策を改善して、罹患親エビ排除と中間育成後の放流エビの検査の徹底を図り、健全エビ確保に寄与することができました。また、新たな調査として十三年度から資源増大を図ることを目的に大阪府と共同で、広域回遊するクルマエビとマコガレイを放流して、移動分散や成長などの調査事業を開始し、

効果の上がる放流技術を目指すことになりました。今後とも標識魚の採捕報告についてのご協力をお願いします。

増養殖関係では、ズワイガニ、アカガレイの種苗生産技術開発研究を続けていますが、小規模ながら高い生残率を上げており、今後は、量産技術と但馬地域への技術移転がテーマとなります。マダコについても初期餌料の培養確保などの検討を行い量産化への努力を続けています。ノリ養殖について見えますと、昨期は、後半ユーカーピアの発生による色落ち現象が広範囲に発生し、品質低下をきたしました。幸い前半の単価高に支えられて金額面では二割近くもアップしました。今期も有明海の方ではすでに色落ち現象が見られ始めたことですが、大阪湾、播磨灘は、ともに順調に推移しております。今後とも原因プランクトンの増殖特性の把握に努め、色落ちの発生予測、被害軽減の技術対策など関係機関と一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

また養殖品種の選別研究では、単胞子を利用した方法で既存品種の特性把握を進め、少しでも病気に強い品種や味の良い品種の選択と保存に取り組んでいます。次に西播海域を中心としたカキ養殖ですが、全国の五、六位の生産をあげ、ノリに次ぐ養殖漁業に発展しています。しかし、種ガキはずっと他県産に依存している、時には入手困難だったり高値な年でも買わざるを得ないという売り手市場で行い、試験段階の手探りではあります。そこで相生湾にて自家採苗の指導がある程度まとまった数の種ガキ生産ができる明るい見通しがつきました。更に安定した生産に結びつくような調査を続

けていきたいと思っています。

漁船漁業関係では、マダイ、メイタガレイが豊漁でありましたが、総じて漁獲量の減少は続いて厳しい状況にあります。シラス漁は、全国上位にあるとはいえ依然として不漁が続いています。サワラでは、資源回復の取り組みとして受精卵放流を始めて二年目を迎えました。漁獲量がやや上向き傾向になっています。来遊した親魚に産卵の機会を与えることが肝要で、網目規制、休漁期の設定などと合わせ早期のサワラ資源の回復が待望されます。一方イカナゴは、豊漁となり資源管理の徹底の効果が見えてきました。漁期後半は価格安となりましたが、儲かる漁業として時期や量などの漁獲方法に課題を残しました。

漁場環境関係では、初夏からの猛暑は表層の高水温化で強い成層を形成し、底層の貧酸素状態が懸念されていましたが、晩夏の台風来襲の攪拌で早期に解消しました。その後大きな赤潮発生もなく、秋季のノリ養殖に必要な栄養塩は、ほぼ確保されました。なお、局地的ではあります。福良湾で二枚貝に特異的に被害を与えるヘテロカプサの発生がみられましたが、魚類養殖にはささいわいして被害はありませんでした。

内水面関係では、アマゴ、ニジマスなどの養殖指導のかたわら、新しい魚種として味も良く、釣りで引く力も強いブルーナムスの普及にも努めてきました。なお、養殖指導に取り組んでいました美方町のチョウザメは、町の特産品として浸透し始めて販売実績もあがってきました。また、全国的に蔓延しているアユ冷水病に対しては、前年に引き続き放流アユの徹

底した保菌検査を実施してきました。一方天然遡上アユの増大を目指して秋口に加古川中流域において産卵場造成実験を関係者とともに取り組みました。遡上期の成果が待たれます。

最後に普及活動成果の話題を一つ。女性起業活動のバックアップとして商品化を手助けしてきた西二見漁協婦人部加工グループの「浜のチエちゃん秘伝の味〔たこめしの素〕」がこの度、東京で行われた「食アメニティ・コンテスト」において水産部門ではただ一件「農林水産省農村振興局長賞」の栄誉を受けられました。誠に喜ばしいことでこれを機にますます売り上げが伸びることを期待いたします。

本年も皆さま方のご要望にお応えすべく職員一同技術開発や調査研究を進めてまいりたいと存じます。

皆さま方の一層のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

二〇〇二年年頭のご挨拶



全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
植村 正治

新年あけましておめでとうございます。
年頭に当たり、全国の漁業者並びにJFグループ(漁協系統)の皆様にご挨拶とさせていただきます。

一昨年は日韓に続き、日中の新漁業協定が発効し、資源管理とその持続的利用、海洋環境の保全を図っていく、本格的な

二百海里時代の枠組みが出来、また昨年は、これからの浜の新しい時代の対応、即応について議論の原点になる水産基本法が施行されるなど、これらがここ三年で整備された事は大変意義あることと思えます。

水産業が安心安全な食料を安定的に供給する産業として位置づけられると同時に、環境保全、鳥々をはじめとする国土の保全、食料安保等が大きな柱になって認知された事は、漁業という産業を持続可能ならしめる、国際的に大きな役割を持つ基本法であるといえます。

この基本法の下で、漁業・漁村の活性化、JFグループ（漁協系統）の一層の役割発揮をして参らなければなりません。漁業は将来性の高い産業であります。健康食品を供給し、これからの地球規模での人口増大、エネルギー問題、環境問題等を解決していくための重要な産業であります。

地方分権の時代として、地方の活性化に向けての課題を明確にし、特色があり魅力ある望まれる産業として存立出来る可能性を持つております。地域産業経済がしっかりとしていることが平和のもとでもあります。

近年つくり育てる漁業が盛んになってきておりますが、天然資源が不足していることが重大な問題であります。資源あつての漁業であります。基本法にのっとり、資源を育てる発想の下での許可の枠組み、線引き作りが行われなければなりません。弱肉強食、過当競争の獲り放題の状況になつてはならないのであります。

そのためには、漁業者が自立性を高め、意識改革の下、自主管理体制を構築し、

前浜の管理をしっかりとやらなければなりません。TAC制度の的確な実施をする上でも同様であります。

二十一世紀を迎え、新しい時代を模索する重大な時期にさしかかったと言えます。時代を切り開いていくためには、系統の事業と組織の改革と経営基盤の安定により、立派な力のある組織になつていかなければなりません。

浜の理解の下、地域特性を有する漁業が持つ個々の問題に、どう対応していくかも配慮し、合併等体制整備を一層進めなければなりません。

漁村の下水道整備や近郊都市へのアクセス等の整備、駐車場も完備された漁港づくりなど、都市と交流ができる漁村づくりを進める事により、都市も地方も一体化し、活性化していく方策を進めることが大切であります。山も温暖化防止や空気の清浄化に役立っておりますが、国家国民のために、おいしい食料を供給する、浜のすばらしい環境がある漁村に、どうぞいらつしやいと、大きな気持ちで迎えられる漁村でありたいと願っております。

国民も魚のいる海が漁業者の原点であることを認識し、釣りを楽しんで資源は絶やさないと気持ちになつて頂きたい。資源は国民みんな管理するものであるという、海を楽しむ仲間意識と意識改革で資源を守り育てて行きたいものです。

また、輸入水産物の増大による、国内水産物の価格の低迷は漁家経営にいいよ厳しさを加えております。これ以上の無秩序な輸入には絶対反対して参らねばなりません。日本の国の主張が世界を動かす様な行動をとって行きたいものと思

ます。世界最大のNGOであるICA（国際協同組合同盟）の漁業委員会が果たす役割は大きいと思えます。

JF全漁連は、浜の声をどう代弁するかに思いを巡らせて、私共の最も重要な課題を掲げ、政治力の結集のもと、この変革の時代を先頭に立って乗り越えていく所存です。

資源を管理し、漁場を守り、組合を守る立場から、自分たちの生活を築き上げることが重要であります。

消費者に親しまれ、信頼され、選ばれたJFグループ（漁協系統）の一層の結束と連携強化を図り、新しい時代にふさわしい運動を皆様と共に展開して参りたいと思えます。

この一年が良い年でありませうよう願ひし、全国各地でご活躍の皆様方の海上安全と一層のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

総仕上げと新たな出発



全国共済水産業協同組合連合会 代表理事 会長
部原 政夫

全国の漁村の皆様、あけましておめでとうございます。

漁業・漁村をめぐる情勢が厳しいなかで、昨年はJFグループ（漁協系統）の念願であった「水産基本法」が制定され、新しい水産政策の運動母体として漁協系統の役割は一層重要となりました。また、(イメージ刷新運動の一環として) 漁協系



統の統一呼称が「JF」に決定したことから「漁協の共済」についても愛称を「JF共済」とするなど事業と組織のイメージ改革に取り組みことといたしました。

今年度は、二年間にわたる「漁協の共済」創設五十周年の「おかげさまで五十年」運動のもと、組合事業の柱を目指すことを基本目標とする「二十一世紀へ！漁協の共済三カ年計画」の総仕上げの段階を迎えています。もとより暮らしの保障を万全なものにするためには、これを一過程として、なお一層強力な運動の展開を必要といたします。

このため、平成十四年度から始まる新しい三カ年計画を策定し、漁協・推進本部・共水連が一体となり、計画に掲げた基本目標の達成にむけた全国運動を強力に展開することといたします。また、共水連としても自立的漁協の育成をいっそう促進するとともに、経営・業務改革の推進等をすすめて、皆様から信頼をいただけるような施策と積極的に取り組んでいく所存であります。

「美しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある地域づくり」を合言葉に全国の漁村の皆様のご理解を得て、今年も力強く前進してまいります。

年頭のご挨拶



兵庫県信用漁業
協同組合連合会
代表理事会長
吉野 生壯
みちもり

明けましておめでとうございます。

昨年は、引き続き不況感の中、魚価安はさらに深刻化し漁獲の減少とあわせ漁家経営は一層厳しいものとなりましたが、県下の系統信用事業につきましては、貯金・貸出において特殊要件を除けば前年を上回る結果で推移致しております。

また、本会の最大の推進目標である信用事業統合も、JF神戸市をはじめ三JF（組合）との統合と一JFとの譲渡契約を完了し、平成十三年度末には四十五JF中、四十二JFとの統合が完了する見通しとなりました。

これらのことは、組合員等利用者の皆様のご理解はもちろん、組合役職員各位のご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。さて、本年度は『ペイオフの解禁』という金融機関にとって大きな節目を迎える年となり、各金融機関が信用、サービス面の強化にしのぎを削ることとなっております。

本会としても、「浜」を支える唯一の金融機関として、四つの理念のもとに具体的な取組を実施してまいります。

マリンバンクは、笑顔と真心の窓口になります。窓口は、JFの数ある事業のうち、漁家の全員と唯一接点を持つ場所であることの再認識のもと、職員のレベルアップを図ります。

マリンバンクは、「浜」のニーズに応えます。漁業経営に対応する融資、貯金制度の充実を行うことはもちろん、多様化する漁家生活に対応できる商品の開発を行います。

マリンバンクは「協同」と「協働」を掲げます。金融機関としての信漁連の経営は、景気の低迷の中でますます厳しくなっていくものと予想されます。このことは会員であるJFや加工協にとっても同じですが、これまで以上に連携を強化し「きょうどう」の強みを発揮します。

ペイオフ実施後に金融機関に求められ、選択の最大のポイントとなるものは、経営の健全性と、顧客に対するサービスです。本会としては、本年四月一日以降の統合体としての本格運営において、本店体制の抜本的な見直し、中期経営計画の策定により対応します。

本年度も厳しい漁業環境が予測される中ですが、会員ならびに組合員各位のご協力のもと、精力的に事業展開を行ってまいりますので、よろしくご願ひ申し上げ年頭のご挨拶と致します。

年頭のご挨拶



兵庫県漁業共済組合
組合長理事
吉岡 修一

新年明けましておめでとうございます。平成十四年の年頭に当たり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、近年の漁業状況は、全国的に引続く魚価の低迷や漁業資源水準の低下による漁獲金額の減少、台風・赤潮・噴火などの自然災害の多発等極めて困難な状況に直面し、漁業経営を圧迫しております。

昨年には、有明海におけるノリの色落ちによる大不作が新聞・TVなどの各種メディアで大きく取り上げられました。有明地区のノリ養殖業者にとっては死活問題となっております。

ぎよさい制度加入者には有明地区全体で十八億円の共済金が支払われ、漁業経営の維持安定に少なからず貢献できました。

しかしながら、未加入者や十分な補償内容ではない加入者もあつたことから、十三年度より漁期に向けて水産庁・地方公共団体・系統団体そしてぎよさい団体が一体となって加入促進に取組み、関係漁協のほぼ全てが加入する結果となりました。

併せて、補償内容も充実し、不幸にして昨年と同じような大不作となった場合でも百億円を超える額の共済金を支払えることとなり、ある程度安心してノリ養殖に取組める体制が整備されております。本県におきましても不慮の災害に備えて十分な対応ができるように、更なるぎよさいの加入拡大に取組む必要性を改めて痛感いたしております。

一方、本年は、平成十一年度より「ぎよさい」の一層の普及拡大を期して展開してまいりました「パワーアップぎよさい21」三ヶ年全国運動が三月末をもって終了いたしました。

この間全国運動に呼応して、未加入漁

協の解消や補償力のアップを図るために、説明会等を随時開催する中で制度の趣旨の普及啓発に取組み、十分な成果は上げられなかったものの、「ぎよさい」加入機運も徐々にあります。着実に高まってきたと認識しております。

同時に、資源の減少、魚価安及びのり色落ち等、近年の漁業状況が厳しい中で、この運動期間中には十五億円を超える共済金が支払われており、漁業経営対策や災害対策としての機能を発揮することができたと自負しております。

昨年水産基本法が制定されましたが、水産基本法の下での資源管理や望ましい経営体育成等の施策の方向を踏まえ、本年十月にはぎよさい制度の改正が予定されておられ、現在内容について鋭意検討が進められているところであります。

ぎよさい団体としては、漁業実態の変化に則した加入しやすしい制度実現に向けて要望しておりますと共にさらなる普及拡大を図るため、新たな四ヶ年の全国運動を本年四月より展開する予定となっております。

本県といたしましても、新たな全国運動に呼応して、改正された制度を軸により一層の加入促進に取組み、漁業経営の後ろ盾として新時代の漁業と漁村づくりにもますますの貢献ができますよう努力していく所存でありますので、ご支援ご協力頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業の更なる発展と皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

西一見漁業協同組合婦人部加工グループが

平成十三年度食アメリテイコンテストにおいて

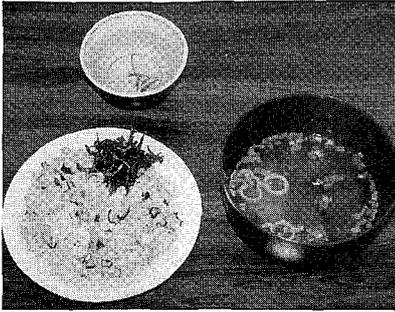
農林水産省農村振興局長賞を受賞

西一見漁業協同組合婦人部加工グループが平成十二年の夏に商品化した「浜のチエちゃん秘伝の味 たこめしの素」が平成十三年十一月二日に開催された平成十三年度食アメリテイコンテストにおいて優良賞（農林水産省農村振興局長賞）を受賞されました。

同婦人部は、浜の秘伝の味を継承させることを使命と考え、同「たこめしの素」を開発されました。また、伝統食の大切さを地域住民に伝えようと料理実習を行ったり、地元にある水産試験場のサマースクールにおいて、小学生を対象に生きたたこを使った干しダコ作りを指導するなど地元に着した活動に取り組んでこられました。

浜のチエちゃん秘伝の味 明石特産 たこめし

明石ダコのたこめしの素



盛り付け例

- 1 浜のチエちゃん秘伝の味 たこめし 明石本場の明石ダコを使用しています。
- 2 明石西一見の浜で、とれたての明石ダコを丁寧の一つ一つ竹で張った干しダコは、潮風を受け、たこの旨味をぎゅっと閉じこめました。
- 3 干しダコは生ダコより風味、香ばしき、歯ごたえが増します。
- 4 浜のチエちゃんのたこめしは先祖代々秘伝の味。本来は干しダコを切って炊きあげます。

たこめし（たこめしの素）

900円（消費税別）

一袋四人前 干しだこ 30g

だし汁 90g

（調理方法）一袋四人前

- 1 米三合を良く洗います。
- 2 炊飯器の釜に洗った米、干しだこ、だし汁を入れ、三号の目盛りまで水を加え、炊きあげます。
- 3 炊きあがったら軽く混ぜ、美味しいたこめしをお召し上がり下さい。なお、切り海苔を振りかけると一層美味しく召し上がれます。

（問い合わせ先）

明石市二見町西一見一〇〇三二二

西一見漁業協同組合婦人部加工

グループ 代表 大里 千枝子

TEL 〇七八一九四三一一〇五

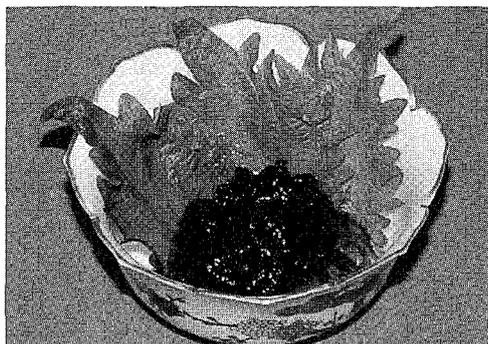
FAX 〇七八一九四二一九三二二

◎電話受付は平日九時から十七時

旬の美味い話

101

たこの佃煮



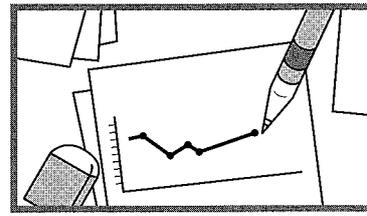
◆材料

乾しのり 20枚 たこ 足3本
しょう油 400cc みりん 30cc
砂糖 200g 化学調味料 少々

◆作り方

- ① たこは塩もみし洗って皮をむき、小さく切る。（いぼは取る）
- ② 鍋に水を入れ、湯もどしたのりを弱火で1時間煮る。
- ③ 水分がなくなったら、たこ、しょう油、みりん、砂糖、化学調味料を入れ、煮汁がなくなるまでゆっくりに煮詰める。

水試 NOTE



ソデイカ「あかいか」の資源・生態調査について

ソデイカは世界の温帯海域に広く分布し、そでいかに科に属する一属一種の巨大な「いか」です。日本近海でも黒潮および対馬暖流域に広く分布し、隠岐島では「べにい」か、兵庫県や鳥取県で「あかいか」、また若狭湾や富山県では「たるいか」あるいは「かんのんいか」と呼ばれており、日本海では富山県以南で漁獲対象となっています。但馬地方での「いか」を対象にした漁業が始まったのは一九六二年とされており、当初は夜の流し釣り漁法でしたが、一九六六年頃より現在の樽流し立て縄漁法による昼間操業が一般的となりました。例年八月のお盆明けに初漁を迎え、その盛期は十月です。上屋に並べられた「あかいか」のセリ風景は、夏から秋にかけての風物詩ともなっており、「あかいか」が獲れ始める但馬地方にも秋の気配が漂い始めます。

兵庫県但馬沿岸域における、ソデイカ漁獲量の経年変化、平成九年以降の月別漁獲量、およびC.P.U.E（一日一隻当たりの漁獲量）を図一～三に示しました。平成六～九年の平均漁獲量は三三〇トンでしたが、平成十年の漁獲量は一一七八トンで過去最大となりました。また平成十一、十二年の水揚げ量はそれぞれ六五五トン、七三九トンで、近年の漁模様は好調と言えるでしょう。平成十三年漁期も、九月現在で昨年同期の十％増となっており、

今年も期待できそうです。平成二年以降、ソデイカの漁獲量は増加傾向にあります。スルメイカ、ケンサキイカの漁模様と密接に関係しており、夏のケンサキイカ漁が好調であれば、ソデイカの漁獲努力量と漁獲量は減少する傾向にあります（図二・四）。このように、日本海沿岸域でよく見られる大型の「いか」なのですが、実のところその生態はまだよくわかっていません。平成十一年度から、但馬水産事務所試験研究室では、平成七年以来中断していたソデイカの資源調査を再開しました。

私は、日本海でとれるソデイカの産卵場は、南西諸島と中国、九州に囲まれた東シナ海中央部付近にあつて、対馬暖流によりソデイカ資源の一部が日本海へ来遊していると考えています。そして、それは索餌回遊であると同時に死滅回遊であつて、兵庫県沖で獲れたソデイカに成熟個体が確認されていることから、日本海で成熟、産卵する可能性はあるものの、水温が低いため翌年の資源に結び

ついていないかと思っています。同様にソデイカを漁獲している鹿児島県や沖縄県では、十一月からソデイカ漁が始まり、三月が最盛期で七月十月は禁漁となっています。また産卵期は一～七月の長期にわたり、主産卵期は四月とされています。しかしこの時期は、逆に日本海での休漁期に当たるため、鹿児島県や沖縄県で獲れているソデイカと、但馬で獲れるソデイカの由来が同じものとは思えません。日本海で獲れるソデイカの産卵期も、沖縄県のソデイカと同じであるとする説もありますが、但馬沖で獲れるソデイカに成熟個体が見られることから、両者を同じ由来とするには無理があるように思われます。そうすると、日本海でとれるソデイカの産卵期は七月～翌年一月頃と考えられ、沖縄県と正反対になります。

市場調査によれば、八月下旬に外殻背長四五cmのソデイカは、九月下旬になると五二cm、十月下旬には六二cmに成長します（図五）。寿命は約一年で、一ヶ月に約十cm

の成長をされると言われていますが、平成十二年は、十月から小型個体の漁獲量が増加し、産卵期が長期にわたることがうかがわれます。そして漁期中に、二～三回の漁獲増加があるようです。ソデイカ資源は、産卵海域での発生量と対馬暖流による日本海への移入状況に大きく影響されていると考えられますが、今までの調査結果を基に、以下のような仮説を立ててみました。

一、日本海で獲れるソデイカの産卵場は、南西諸島と中国、九州に囲まれた東シナ海中央部付近にあつて、産卵期は七月～翌年一月の長期にわたり、その来遊は黒潮および対馬暖流の流れや流軸位置に左右される。

二、日本海での漁獲量は翌年の資源量と無関係であるため、取り尽くしてもかまわない。その代わり、年ごとの漁獲量の変動幅は非常に大きい。今後鹿児島県、あるいは沖縄県等との情報交換や、試験操業による来遊状況調査をはじめ、標本船調査、市場調査、生物測定、標識放流等により、いろいろなことが明らかになるとかと思われ、ご期待ください。

兵庫県立水産試験場資源部
主任研究員 五利江重昭

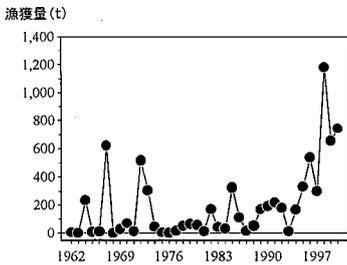


図1 ソデイカ漁獲量の経年変化

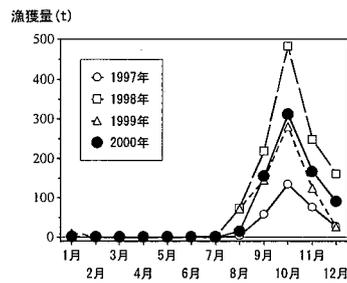


図2 ソデイカ漁獲量の推移

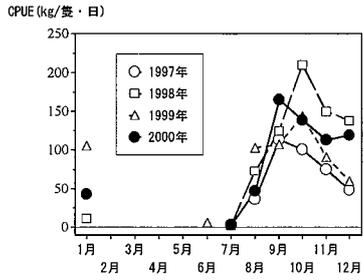


図3 ソデイカの1日1隻当たり漁獲量の推移

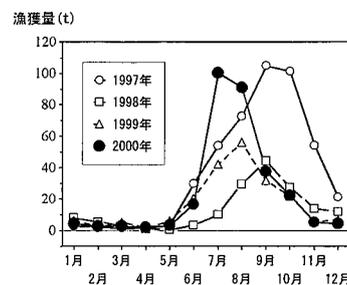


図4 ケンサキイカ漁獲量の推移

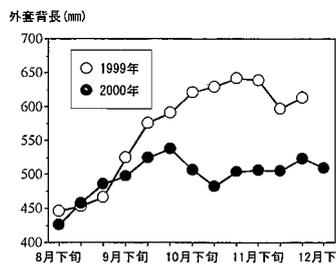


図5 ソデイカの平均外殻背長(mm)

栽培漁業センターです

160



新年あけましておめでとうござ
います。新しい世紀も一年が過ぎ
たというのになかなか景気のいい
話が出てくる兆しもなく、心身共
に寒い冬を過ごしています。今後
は季節とともに温かくなることを
期待したいものです。

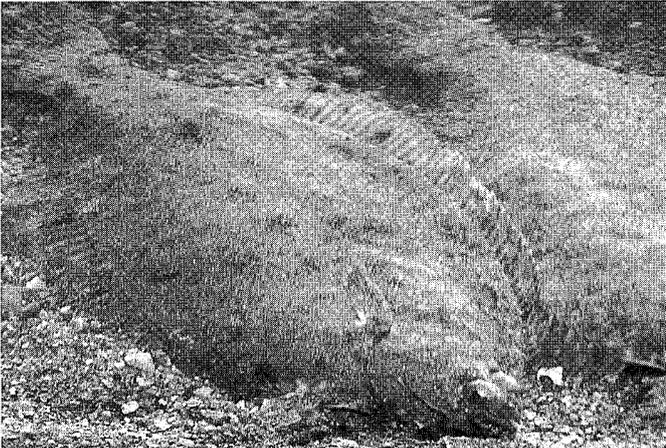
さて、この季節、明石の兵庫県
栽培漁業センターではマコガレイ
の種苗生産の時期を迎え、昨年末
から親魚の人手や飼育の準備が着々
と進んでいます。そこで今回はこ
のマコガレイの親魚について少し
お話しします。現在、ここ兵庫県
栽培漁業センターではマコガレイ
の他に、マダイ・ヒラメ・オニオ
コゼの種苗生産を行っています。

これらの魚種は周年親魚を管理し
ています。ところが、マコガレイ
については毎年種苗生産の前に親
魚を購入しています。この理由は、
産卵の仕方が他の種苗生産魚種と
違うため、漁獲された親魚から比
較的簡単に良質な卵が得られるた
めです。と言うのは、現在、ここ
で周年管理しているマダイやヒラ
メは産卵期を迎えるとはほぼ毎日少
量の卵を産み続けるのですが、良
質な卵を産卵させるためには水槽
や餌に十分に馴れさせる必要があ
ります。そのために生まれて一年
に満たない幼魚の頃から飼育を行

い親魚になるまで数年間飼育をし
ていかなければなりません。とこ
ろが、マコガレイは産卵期に一回
だけお腹の中の卵を全て産卵する
という産卵の仕方をします。その
ため、産卵が近づく十二月中旬に
なると、お腹が大きくなった雌と
精子が十分作られた雄が漁獲され
るため、それらを購入して少しの
間管理するだけで良質な卵を得る
事ができるのです。しかし、最近
はマコガレイの漁獲量が少なくなっ
てきている事もあり、必要量の親
の購入にも苦労する事が多くなっ
てきています。

そこで、ここ兵庫県栽培漁業セ
ンターでは、マコガレ
イの種苗生産技術の向
上もあり、昨年までの
生産量は十五万尾でし
たが、今年からは二十
万尾の生産を目標に事
業を進める事になって
います。栽培漁業を通
して資源量の増大に微
力ながらも貢献できれ
ばと考えています。

ところで各事業場の
様子ですが、明石の兵
庫県栽培漁業センター
では、先に紹介しまし
たマコガレイの他にメ
ガイアワビ・アカウニ・アサリの
種苗生産試験が継続中です。また、
委託を受け中間育成を行っており
ましたオニオコゼは十二月五日に
無事配布し終了しました。但馬裁
培漁業センターでは貝類の種苗生
産が継続中で、クロアワビが採卵・
採苗中、サザエが殻高二〜七ミリ
の稚貝四十万個をカゴ飼育中です。
淡路の津名事業場では、アカウニ
の種苗生産試験が継続中で、その
他、春期から始まるヒラメの生産
に向け餌料の準備を進めています。
(ひょうご豊かな海づくり協会
森田純人)

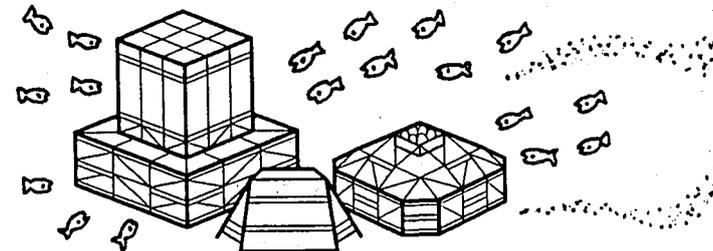


マコガレイ親魚

躍動する海

活動する

神鋼鋼製魚礁



神戸製鋼グループの魚礁メーカー

株式会社 神鋼建材工業

本社 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46-1
大阪支店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2
丁目6-17(大阪神鋼ビル)

海洋製品室 TEL (06) 6206-7440
FAX (06) 6222-4904

海区漁業調整委員会だより



十一月二十七日
兵庫県瀬戸内海海区
漁業調整委員会・委員
協議会（兵庫県民会館にて）

委員会

一、「海洋生物資源の保存及び管理に関する兵庫県計画」の変更について（諮問）
国が定める海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画の変更に伴い、県計画を変更する必要が生じたため、知事が諮問を行った。このことについて審議した結果、原案どおり変更することに異議がない旨答申することに決定した。
変更点は、従来の「特定海洋生物資源」（排他的経済水域等において、漁獲可能量を決定すること等により保存及び管理を行うことが適当である海洋生物資源であって、政令で定めるもの）という表現を「第一種特定海洋生物資源」に変更すると共に、特定海洋生物資源の平成十三年の知事管理量を「まいわし」、「まさば及びごまさば」、「まあじ」及び「するめいか」とも「若干」としていたが、この期間を「平成十四年一月から十二月」に変更することである。

委員協議会

一、平成十四年度岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会における入会協定について
現在の協定内容について事務局が説明を行い、関係委員に十四年度の協定内容についての検討を依頼した。
この件については、十一月の委員協議会で当海区の方針を決定する予定である。

二、最近の試験研究成果について

漁場環境、種苗生産等に関する近年の試験研究成果について、水産試験場が報告を行った。



十一月二十一日
但馬海区漁業調整委
員会及び委員協議会
（但馬水産事務所会議室にて）

委員会

一、「海洋生物資源の保存及び管理に関する兵庫県計画」の変更について（諮問）
知事から諮問のあった当該計画の変更について、「原案のとおり変更して差し支えない」旨答申することを議決。
今回は、資源管理法の改正に伴い、特定海洋生物資源を第一種特定海洋生物資源に改める名称の変更等。

委員協議会

一、日韓民間漁業者団体協議の合意について
十月二十二、二十三日にソウル市で開催された第十回日韓民間漁業者団体協議で、「ズワイガニ漁業について、暫定水域内の特定水域において両国が漁期を分割して操業すること」などで民間合意が成立したことを報告。

二、全漁調連日本海ブロック会議の概要について

十一月一日に松江市で開催された当会議の結果について報告。

三、日本海中西部府県水産主務課長会議の概要について

十月十一日に福井市で開催された当会議の結果について報告。

四、ズワイガニ漁況の見通しについて

但馬水産事務所試験研究室が実施したズワイガニ漁期前調査結果等について報告。



普及員だより

二十一世紀は女性の時代

皆さん新年明けましておめでとうございます。

さて、二十一世紀最初の年となった昨年は、小泉内閣の誕生、アメリカでの同時多発テロ、狂牛病問題、企業の大倒産、日経平均株価一万円割れ、池田小学校での目を覆いたくなるような事件等、本当に様々なことがありました。

残念ながら、景気の悪化に象徴されるように、暗いニュースが多く聞かれた一年であった気がします。

しかし、その中でもやはり、明るい話題や新しい潮流は見られました。

例えば小泉内閣誕生の原動力となった田中真紀子外務大臣の根強い人気は未だ健在です。

秋には高橋尚子選手が女子マラソンで世界記録を樹立し、オリンピックでの金メダルに続いて、まさに有言実行を成し遂げてくれました。

私もテレビにかじりついて観戦していましたが、ゴールの瞬間は目頭が熱くなりました。

そして十二月一日には、皇太子ご夫妻に国民皆が待ち望んだ待望のお子さま、愛子さまが誕生され、今年の今までの暗い気持ちを一気に吹き消すような出来事となりました。

愛子さまが元気に成長されますことをお祈りする次第です。こつして並べてみると、我が国の二十一世紀の新しい胎動は、女性により始まり、二十一世紀がまさに女性の時代となることを示しているような気がします。

一方、漁村に目を移して見ますと、私が所属する神戸農林水産振興事務所の管内には、JF兵庫、JF神戸市の二つのJFがあり、それぞれ漁協婦人が組織され、いつも活発な婦人部活動が行われています。

特に神戸市漁協婦人部では、毎年、「イカナゴ」のクギ煮講習会や「神戸の魚を食べましょ」市民とのふれあいデーの開催、海浜清掃の実施、「神戸みりの祭典」への参加などをされる一方で、各浜ごでも自主的な活動をされるなど、本当に元気で熱心な取り組みには頭が下がる思いです。

また、昨年の十一月には、遠く鹿島灘に面する茨城県の漁協婦人部の方々が、婦人部活動の先進地を視察したいと訪問され、神戸市漁協婦人部三役の方々の熱心な意見交換会が行われました。

私もその席に同席しましたが、中でも、茨城県も船びき網漁業（本県とは漁法が異なり、かけ回し式の一艘びきです。）が非常に盛んで、イカナゴが沿岸漁業の重要な魚種だそうですが、水揚げのイカナゴの加工流通体制や水揚げ作業等の婦人の役割等について特に興味があった様子で、神戸ではJFが自ら加工事業を行っていること、イカナゴは加工向けだ

けでなく、各家庭で、家庭の味としてクギ煮にするので、生売りでも流通すること、また水揚げ作業は機械化により労力はそれほどかからないこと、クギ煮講習会の開催等、魚食普及への婦人部の取り組み等を聞いて、しきりに関心されていました。

また、茨城県では水揚げ時にイカナゴを詰めたコンテナを、荷さばき場まで運搬して並べるのが婦人の役割で、一個二十〜三十kgあるコンテナを幾つも運ぶのが重労働でも大変なことです。

でも、とても大変だと言いつつ、大変さを感じさせない明るく前向きな態度がとても印象的でした。本県でも漁村の婦人の方々が漁労や水揚げ、さらに加工流通作業等に関わっていますが、その程度は地域や漁業種類等によって異なっています。

夫婦船として夫婦で一緒に漁に出られるような例もあれば、水揚げ作業を手伝う例、水揚げは婦人が中心となつて行つ例、あるいはサラリーマン世帯のように婦人は家庭のことだけをされている例など本様に様々です。

しかしノリ養殖などのように、家族総出で関わられている例がやはり多いのではないかと思います。でもこれは漁家だけに限ったことではなく、サラリーマン世帯で専業主婦である以外では、多かれ少なかれこのような形態であり、女性の社会への貢献度は実は以前からとても大きいことがわかります。専業主婦であっても、もちろん遊んでいるわけはありませんので同様です。

二十世紀は、女性の社会参加等が言われながらも実際には重要な意志決定は男性が行う男性中心社会であり、その方式で持つて我が国は大きな経済成長を遂げてきました。

しかし、ここに来てその方式にもそろそろ限界が見えてきたようで、二十一世紀を迎えた今、世の中には閉塞感が溢れています。

そしてこの閉塞感をうち破るには、足下の景気云々という表面的なレベルよりもっと深いところから社会構造を革新させていく必要があります。

そして、明るくて前向きな女性の力が、その大きな原動力になると思うのは私だけでしょうか？

神戸農林水産振興事務所

高木 英男

兵庫JCC通信 今、JA・生協では

JA

JA高齢者福祉事業 トップセミナーを開催

JA兵庫中央会は十月二十五日、JAトップに高齢者福祉事業についての理解を深めてもらうために、県農業会館でJA高齢者福祉事業トップセミナーを開催し、九JA・県各会から常勤役員並びに担当課長三十一名が参加しました。

最初に、関西大学社会学部松原一郎教授が、「地域と福祉」と題し、戦後生まれた社会福祉制度から社会環境の変化に伴う社会福祉基礎構造改革について講演しました。介護保険事業においては、サービスの品質管理が重要であり、介護サービスをチェックする第三者評価が必要になっていきます。JAは介護事業にとどまることなく、地域社会における高齢者の自立と共生を考えなければならぬ、と強調しました。

続いて、JAくにびきの伊藤利治常務理事が、JAでの実践事例報告を行いました。JAの取り組みは、平成四年の訪問介護員養成、平成五年助けあい組織JAくにびき「ひまわりの会」の結成から始まり、介護保険事業では、通所介護（痴呆単独二カ所、一般一カ所）・短期入所生活介護・訪問入浴介護・訪問介護事業に取り組みられています。また、介護事業の運営が課題の中、①利用者の確保（信頼の積み重ねが必要）②人材の確保（優秀な現場責任者と訪問介護員体制）③管理経費をいかに抑制するか施設投資が大きくなると償却が難しい。公設民営、合併等でJAの遊休施設をうまく改装して、補助金、助成金を得ることも必要と

④行政・医療機関との連携が必要である点等を強調されました。さらに、JAの全職員を二日間福祉施設に体験学習させて、身をもって介護事業についての理解を深めさせ、全職員が一体となって事業を進めている事例の紹介がありました。



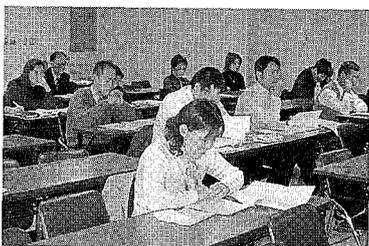
JAの取り組み事例報告を行う伊藤利治常務理事らに、JAの全職員を二日間福祉施設に体験学習させて、身をもって介護事業についての理解を深めさせ、全職員が一体となって事業を進めている事例の紹介がありました。

生協

「職場における男女共同参画をすすめるために」をテーマに 兵協連生活問題研究会「公開 学習会」を開催

十一月二十六日（月）午前九時三十分から兵庫県民会館において兵協連生活問題研修会主催による公開学習会を開催し役職員二十六名が参加しました。

まず、はじめに、生活問題研究会・寺嶋座長（神戸大学生協・専務理事）より、開会あいさつと日生協「男女共同参画促進に関する第二次中期行動課題」の中から職員分野についてポイント説明を行いました。続いて兵庫県民生活部男女共同参画推進室・日下部係長より兵庫県における男女共同参画推進施策のひとつでもある条例策定にむけた取り組みをご説明いただきました。次に学習講演として、神戸大学発達科学部教授・朴木佳緒留先生をお招きし「ジェンダーフリーな暮らしを創る」をテーマにご講演いただきました。職場の中でジェンダーフリーになるために、「まなざし」のちがいで仕事との与え方、与えられ方が男女によって違っていることをあげ、その「まなざし」を変える、地位が人をつくる、人は期待されるように育つなど教育学の視点から、また、再生産されるジェンダーとして、広告・チラシ等で繰り返し発信されるジェンダーメッセージを、会員生協のチラシを事例に具体的に説明いただきました。参加者からも「とても身近なところに再生産されているジェンダーメッセージがあることに気づいた」などの感想をいただき、有意義な学習会になりました。



講演に熱心に聞き入る参加者

巻末 エッセイ

馬について考える

◆馬は紀元前三千年頃、イラン高原や西トルキスタンの草原で家畜として飼育されたとされている。その進化の歴史は古く、地質年代の第三紀初め北アメリカに現れ、第四紀にはアジア大陸へ渡り、やがて今見られる馬が出来上がったという。日本での野生馬は、洪積世に生息していたが、沖積世で絶滅したと考えられている。東北の南部馬・秋田馬・三春馬、九州の薩摩馬が知られるが、四世紀前半に移入された小型のモロコウマ系のものである。現在は、木曾馬や宮崎都井押馬が、僅かに生息しているに過ぎず、道輪に見るような馬形をしている。

◆馬は重宝され、乗馬用・競走馬用・軽鞍用に使われるが、トラックが普及する以前は、ものを運ぶのは専ら牛や馬の力を利用していった。牛は農耕での主役を務め、馬はトラックの代役をしていた。大久保町の江井島港で、地瓦や酒樽の積み降ろした頃、沢山の荷を積んだ荷馬車が、黙々と坂を上っていたのを覚えている。馬方は手綱を操作し、馬を自在に動かした。時には糞尿をするため、長い時間止まることもあった。未舗装の砂利道は埃が舞い上り、馬糞の匂いに満ちていたという。そんな昔のことではないが、馬車も遠い語り草となった。その肉は桜の花色に似ており、さくら肉と呼ばれ牛肉と同様に食肉に利用する。

れてきた証である。
『馬が合つ』とは、本来は馬と騎手の関係をいつた言葉。その裏には神経質な馬を乗りこ

なすには、手数がかかる事情を含めてあり、気が合うこと、性が合うことの難しさが込められている。『老いたる馬は道を忘れず』は、経験豊富な人は方針を誤らず、長年の恩を受けた元の主人を忘れないとの、二つの意味が掛けてあり『老馬の智』と同意語である。『竹馬の友』とは、幼な友達のことだが、今の竹馬は合成樹脂製だから、既に死語と言える。『名馬に癖あり』は、強烈な個性を放つてこそ、非凡な動きが出来るのであり、癖があつてこそ名馬なのであるとか。単に静かで温和なだけでは平凡にすぎない。しかし平凡に生きることが難しい世相でもある。

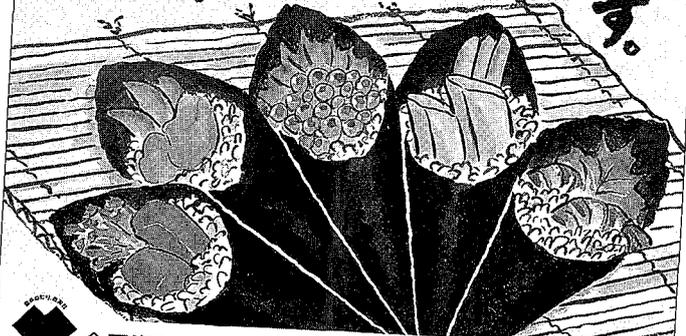
◆『平家物語』には名馬いけずき(生曇)、すずめ(磨墨)が出てくる。宇治川の決戦で源氏の武将・佐々木高綱と梶原景季を乗せ、先陣争いをしたという話で、高綱が乗る生曇が勝つたのである。景季は和歌に長じ、一ノ谷の合戦では腕に梅の花をつけて奮戦したので有名である。講談の演目に、馬の出る豪快な話は『寛永三馬術』で、曲垣平九郎・向井蔵人(度々平と仮称)・筑紫市兵衛の愛馬として馬が登場する。円朝の人情断、難難(なんなん)のすえ、新炭商で成功する塩原太助と愛馬・青との惜別の名場面がある。題は『塩原太助一代記』。

◆十二支の馬は、第七位にあり「午」の字をあてる。季節は六月水無月、時間は午前十一時から午後一時頃を指し、方向は真南をいう。真北が子で、南北を貫く「子午線」

今年も海苔は元気で。

寒風になびく波の音と潮の匂い。自然の食物は我々に元気をくれる。艶華やかな新のりの封を切った時に広がる香りのよさは格別。海の中心み。海苔の旬は冬。

新海苔入荷



全国海苔問屋協同組合連合会 JF 漁協・漁連・全漁連

編集後記

あけましておめでとうございます。旧年中は「拓水」をご愛読いただきましてありがとうございました。今年も皆様に愛される「拓水」を目指し、少しでも多くの方に目を通していただけるような楽しい記事、興味をそそるような記事をお届けできるように頑張ります。本年もどうぞよろしく願いいたします。

が生まれる。午という字は、穀物をつく杵を表し、音が二である所から「二」伍(ななま)群居する動物「馬」にあてるといふ。乱暴なこじつけであるが、当て字とはそうしたものだ。十二支の生じた由来も、難しく理解困難であるが、丙午の年は、出産率が低くなるという。丙午生まれの人は「気性激しく制御できぬ」と、誠しやかに言っけれど、確かな事は判っていないのである。そうした不確実なことが、不自然な伝わり方をしていくのが迷信であるようだ。今年の干支は壬午(みづのえ)馬の如く景気が駆け上って欲しいものと切に思う。

(遊方子)

謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます

兵庫県漁業協同組合連合会

代表理事 小川 守男
専務理事 壽 進
常務理事 戸田 氏懿
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六五二三四四一

兵庫県信用漁業

協同組合連合会

代表理事 吉野 生 壯
専務理事 今井 邦 彦
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八八八五

兵庫県漁業共済組合

組合長理事 吉岡 修 一
参 事 石原 満
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八九七〇

共水連兵庫県事務所

所 長 吉岡 修 一
次 長 北 慶 三
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一八九九六

兵庫県漁業信用基金協会

理 事 長 北原 昭 夫
専務理事 山 里 昌 幸
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一五六四三

兵庫県内海漁船保険組合

組合長理事 早川 正 一
専務理事 岡本 敏 夫
神戸市中央区中山手通
七二八三三三県立産業会館内
電話(〇七八)三六一八一三三七

但馬漁船保険組合

組合長理事 吉岡 修 一
専務理事 山 脇 日出男
城崎郡香住町香住一八五二四
電話(〇七八)三六一二二二二

(財)ひょうご豊かな海づくり協会

理 事 長 山田 春 三
専務理事 本下 堯 敏
明石市二見町南二見二二三三
電話(〇七八)九四三二八一一三

兵庫県漁港協会

会 長 新 阜 京 一
事務局長 吉岡 三 良
神戸市中央区北長狭通五五一八
兵庫県林業会館四〇四号
電話(〇七八)三五一一六一〇七

兵庫県瀬戸内海

漁業操業安全協会

会 長 高 橋 伊勢雄
事務局長 吉田 俊 明
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一三三七三

(財)兵庫県水産振興基金

役 職 員 一 同
神戸市兵庫区中之島二二一一
電話(〇七八)六八一三三七八九

兵庫漁業協同組合

代表理事 湯本 一 郎
神戸市兵庫区吉田町三二七二九
電話(〇七八)六七二七二九八

神戸市漁業協同組合

代表理事 山田 春 三
神戸市垂水区平磯二一一一〇
電話(〇七八)七〇六〇四五六

東明石浦漁業協同組合

代表理事 近藤 邦 男
明石市中崎二一一一六
電話(〇七八)九三二二一五一一

明石浦漁業協同組合

代表理事 小松 司
明石市岬町三三一
電話(〇七八)九二二二七七一

林崎漁業協同組合

代表理事 隅谷 健 兒
明石市林三一九一七
電話(〇七八)九三二二五一一〇

江井ヶ島漁業協同組合

代表理事 橋 輝 幸
明石市大久保町江井島四一八一六
電話(〇七八)九四六一三三三

魚住漁業協同組合

代表理事 竹本 昭 六
明石市魚住町中尾八九一
電話(〇七八)九四六一三三九四

東二見漁業協同組合

代表理事 大西 二三夫
明石市二見町東二見二〇一九
電話(〇七八)九四二二二〇二〇

西二見漁業協同組合

代表理事 大上 正 一
明石市二見町西二見一〇〇三一一
電話(〇七八)九四三二一〇五

播磨町漁業協同組合

代表理事 西 口 勝
加古郡播磨町古宮七六八
電話(〇七八)九四二一九二二

別府町漁業協同組合

代表理事 川崎 十九男
加古川市別府町港町八
電話(〇七八)三三三〇四二二

尾上漁業協同組合

代表理事 岩 城 和 夫
加古川市尾上町池田二六八一五
電話(〇七八)二七二七六三三

高砂漁業協同組合

代表理事 松本 力
高砂市高砂町材木町二一九八
電話(〇七八)四二二〇二七八

荒井漁業協同組合

代表理事 笠谷 信 夫
高砂市荒井町南栄町三一〇
電話(〇七八)四二二三五八五

伊保漁業協同組合

代表理事 早川 正 一
高砂市高須一八一八
電話(〇七八)四八五三〇〇

曾根町漁業協同組合

代表理事 古 門 信 一郎
高砂市曾根町二五三三一一
電話(〇七八)四七三三〇〇一

大塩町漁業協同組合

代表理事 濱野 久 良
姫路市大塩町二四二一四
電話(〇七八)五四二二五五三

の形漁業協同組合

代表理事 中 沢 卓 生
姫路市の形町福泊四九二一一
電話(〇七八)五四四二七二

八木漁業協同組合

代表理事 川崎 英 夫
姫路市木場一三七八一一
電話(〇七八)四五二八八四〇

白浜漁業協同組合

代表理事 浜 田 繁 喜
姫路市白浜町丙六一二
電話(〇七八)四五二〇三五

妻鹿漁業協同組合

代表理事 金 澤 義 之
姫路市飾磨区妻鹿七九一一二
電話(〇七八)四五二一五四二

阿成漁業協同組合

代表理事 中野 昭 道
姫路市飾磨区阿成一七六一五
電話(〇七八)三五二四〇五

飾磨漁業協同組合

代表理事 井 上 隆
姫路市飾磨区大浜三〇
電話(〇七八)三五二〇九〇一

広畑漁業協同組合

代表理事 福 井 盛 雄
姫路市飾磨区西浜町三九九七
電話(〇七八)三九二四二一五

大津漁業協同組合

代表理事 黒 田 一 輝
姫路市大津区勤兵衛町一五五
電話(〇七八)三六一五三三三

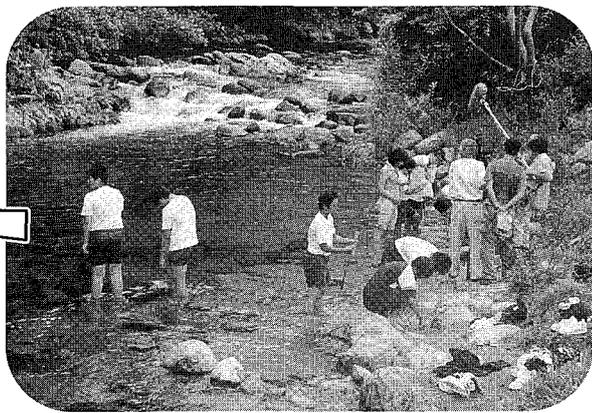
網干漁業協同組合

代表理事 塚 瀬 三 代 司
姫路市網干区興浜二〇九三一一三三
電話(〇七八)七四一〇三〇四

<p>家島漁業協同組合 代表理事組長 中村 庄助 電話(〇七九三)五〇〇〇七 飾磨郡家島町宮一〇一</p>	<p>由良町中央漁業協同組合 代表理事組長 杜家 竜治 電話(〇七九九)二七〇五五五 洲本市由良一〇二〇一九</p>	<p>釜口漁業協同組合 代表理事組長 濱邊 頼光 電話(〇七九九)七四一五三六 津名郡東浦町釜口四二五</p>	<p>一宮町漁業協同組合 代表理事組長 石上 昌利 電話(〇七九九)八五一〇〇二 津名郡一宮町那家一三五五</p>	<p>竹野浜漁業協同組合 代表理事組長 石田 孝一 電話(〇七九六)四七一二八八 城崎郡竹野町竹野五〇五一六</p>
<p>坊勢漁業協同組合 代表理事組長 桂 正明 電話(〇七九三)六〇〇三三 飾磨郡家島町坊勢六九七</p>	<p>由良漁業協同組合 代表理事組長 沖之島 新司 電話(〇七九九)二七〇〇五一 洲本市由良一六二二三</p>	<p>飯屋漁業協同組合 代表理事組長 戎 哲路 電話(〇七九九)七四二〇五七 津名郡東浦町飯屋二二二一</p>	<p>五色町漁業協同組合 代表理事組長 山岡 進 電話(〇七九九)三四一〇三三 津名郡五色町鳥飼浦一一一</p>	<p>柴山港漁業協同組合 代表理事組長 村瀬 晴好 電話(〇七九六)三七一〇三〇 城崎郡香住町沖浦九一一八</p>
<p>苧屋漁業協同組合 代表理事組長 濱本 良一 電話(〇七九三)二一〇五八六 揖保郡御津町苧屋六八二</p>	<p>東由良町漁業協同組合 代表理事組長 森下 登 電話(〇七九九)二七〇二二三 洲本市由良四一六七一</p>	<p>森漁業協同組合 代表理事組長 森 善昭 電話(〇七九九)七四二二〇五 津名郡淡路町久留麻二〇五十五</p>	<p>湊漁業協同組合 代表理事組長 杉谷 佳敷 電話(〇七九九)三六一〇一〇 三原郡西淡町湊一一〇〇</p>	<p>香住町漁業協同組合 代表理事組長 吉岡 修一 電話(〇七九六)三六一三三三 城崎郡香住町若松七四七</p>
<p>岩見漁業協同組合 代表理事組長 井上 仁 電話(〇七九三)二一〇〇二四 揖保郡御津町岩見一三〇八一五</p>	<p>洲本漁業協同組合 代表理事組長 鯛 正次郎 電話(〇七九九)二二一〇五六八 洲本市海岸通一六一一八</p>	<p>浦漁業協同組合 代表理事組長 新阜 亀吉 電話(〇七九九)七四一三二〇一 津名郡東浦町浦八四二一三</p>	<p>丸山漁業協同組合 代表理事組長 小川 守男 電話(〇七九九)三九一〇〇五 三原郡西淡町阿那賀一四六三六</p>	<p>浜坂町漁業協同組合 代表理事組長 川越 榮一 電話(〇七九六)八二一三〇二〇 美方郡浜坂町岩屋六六一一</p>
<p>室津漁業協同組合 代表理事組長 吉村 正信 電話(〇七九三)四一〇三三一 揖保郡御津町室津四九三二二地先</p>	<p>炬口漁業協同組合 代表理事組長 西岡 勇 電話(〇七九九)二二一〇三六七 洲本市炬口一一一一</p>	<p>淡路町漁業協同組合 代表理事組長 高橋 伊勢雄 電話(〇七九九)七二一三〇四六 津名郡淡路町岩屋一四一四一</p>	<p>阿那賀漁業協同組合 代表理事組長 坂口 美之助 電話(〇七九九)三九一〇一〇 三原郡西淡町阿那賀九八三二三</p>	<p>由良町漁業協同組合連合会 代表理事組長 杜家 竜治 電話(〇七九九)二七一〇六〇 洲本市由良町由良三五五一地先</p>
<p>相生漁業協同組合 代表理事組長 坂田 強志 電話(〇七九二)二一〇三四四 相生市相生三二四一二</p>	<p>塩田漁業協同組合 代表理事組長 中田 勝 電話(〇七九九)六二一〇一七四 津名郡津名町塩尾六一五一四地先</p>	<p>富島漁業協同組合 代表理事組長 小西 正治 電話(〇七九九)八二一〇〇一八 津名郡北淡町富島字小倉浜九四〇</p>	<p>福良漁業協同組合 代表理事組長 天羽 日出男 電話(〇七九九)五二一〇〇六四 三原郡南淡町福良乙一六五二一二</p>	<p>明石市水産加工業協同組合 代表理事組長 井上 英也 電話(〇七八)九二二三三八六 明石市林三一九一三三</p>
<p>坂越漁業協同組合 代表理事組長 前田 一實 電話(〇七九二)四八八〇四五 赤穂市坂越七九五一一</p>	<p>志筑浦漁業協同組合 代表理事組長 柏木 和三郎 電話(〇七九九)六二一〇〇六九 津名郡津名町志筑三三二八一三</p>	<p>浅野浦漁業協同組合 代表理事組長 志田 友安 電話(〇七九九)八二一〇〇六四 津名郡北淡町斗ノ内一六九四</p>	<p>南淡漁業協同組合 代表理事組長 前田 吉計 電話(〇七九九)五六一〇〇二二 三原郡南淡町灘土生四五</p>	<p>淡路島水産加工業協同組合 代表理事組長 柴田 武 電話(〇七九九)六五一〇〇七〇 津名郡津名町佐野二七八一一</p>
<p>赤穂漁業協同組合 代表理事組長 耳田 龍夫 電話(〇七九二)四五一三二六〇 赤穂市御崎一七九八一</p>	<p>生穂漁業協同組合 代表理事組長 松原 幸次 電話(〇七九九)六四一〇一〇七 津名郡津名町生穂一五五三三七</p>	<p>育波浦漁業協同組合 代表理事組長 丸一 芳訓 電話(〇七九九)八四一〇〇三二 津名郡北淡町育波一四八一三</p>	<p>沼島漁業協同組合 代表理事組長 磯崎 剛 電話(〇七九九)五七一〇二四六 三原郡南淡町沼島二三八八一</p>	<p>香住町水産加工業協同組合 代表理事組長 上垣 和弘 電話(〇七九六)三六一一〇三三 城崎郡香住町香住一八五四</p>
<p>福浦漁業協同組合 代表理事組長 小山 壽一 電話(〇七九二)四三一〇六〇九 赤穂市福浦三七九一一</p>	<p>佐野漁業協同組合 代表理事組長 島田 茂嗣 電話(〇七九九)六五一〇〇五四 津名郡津名町佐野二〇二九一一</p>	<p>室津浦漁業協同組合 代表理事組長 岡野 朝義 電話(〇七九九)八四一〇〇一四 津名郡北淡町室津二四二九一八</p>	<p>津居山港漁業協同組合 代表理事組長 眞野 豊 電話(〇七九六)二八一二五三二 豊岡市津居山三二七</p>	<p>香住町水産加工業協同組合 代表理事組長 上垣 和弘 電話(〇七九六)三六一一〇三三 城崎郡香住町香住一八五四</p>



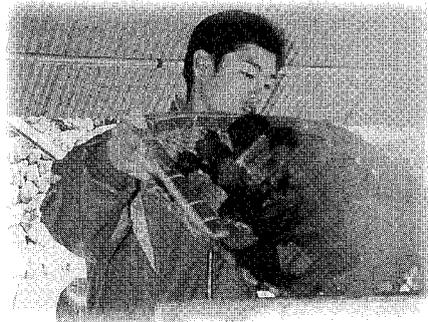
この夏は海です



夏休みの砂鉄採集風景（千種町）



子供歌舞伎（南光町）



「たたら」に炭を投入（千種町）

【2001年12月16日放送
第1264回】

口々たより

清流…千種川70⁺の旅 〈千種町・南光町・佐用町・上月町・相生市・赤穂市より〉

兵庫県の川の多くは、中国山地を分水嶺として北は日本海・南は瀬戸内海や大阪湾に注いでいます。その数は本支流合わせて七百三十五、総延長は三千五百三十六⁺にも及んでいます。これら一本一本の川には「母なる川」と言う言葉があるように、兵庫県民の長い暮らしの歴史が綴られてきました。

今回はその中で兵庫県一美しいと言われる千種川源流の町、千種町から河口の赤穂市まで歩いてみました。千種川は千種町の河合と言う西河内川と河内川の出会う所が起点。鳥取県境の三室山の南山麓を源に中国山地の水を集めて西播磨地方を南流、瀬戸内海の播磨灘に注ぐ全長六十七・六⁺の千種川は兵庫県で四番目に長い川。千種町、佐用郡平福、上月町、三日月町、上郡町等の流域の町々は、旧因幡街道・出雲街道・山陽道等の宿場町として発達してきました。千種川の名前は最上流部の千種の町から、千種町と言えは千年以上も前の記録にも記されている千種鉄です。千種川一帯から生産された千種鉄は、千種鋼・穴粟鋼とも呼ばれ明治中頃西洋式の製鉄技術が入ってくるまでは、日本刀・備前長船の材料として刀鍛冶から大変重宝がられてきた和鉄です。その故郷の歴史を伝えたといと千種中学では二年生の時に学習に取り組んでいます。学習は先ず夏休みに千種川等で砂鉄を採集することから始まります。砂鉄は風化した花崗岩や石英閃緑岩の中に含まれる砂状の鉄のこと。砂鉄の含まれている所は比重の関係で鉄が沈殿、砂が黒くなるので、すく判別出来ます。川では面白く、うに砂鉄が採れました。それを使って二学期に現代風「たたら」で鉄造りに挑戦しました。朝十時前に五百⁺の砂鉄

投入に始めて五時間、都合五十⁺の砂鉄と二百五十⁺の炭を燃やし続け見事銀色に輝く鉄が出来ました。「自分の町の誇りを持って巣立つてほしい」先生のお話が納得できる成果でした。

南光町では二年に一度の子供歌舞伎上演の年でした。夏休み・播州歌舞伎を継承される嵐獅山さんの指導で熱心に稽古に励む子供たちの姿。十月十四日の今年十周年を迎えた記念の舞台は見事、重要民族資料に指定されている上三河の舞台が一際華やいだ一日でした。宮本武蔵の生母の里として又、武蔵十三才の時、有馬喜兵衛を破った史跡も残る佐用郡平福は、白や卵色の土壁もそのままに残る宿場町。日本棚田百選に選ばれた大木谷の棚田を見下ろす、平安時代の陰陽道の大家安倍清明とその敵対関係にあった音屋道満の二つの塚が今チョットしたブームでした。

そして上月町は昔、河口の赤穂より塩等が船で運ばれてきたと言う山の中流の港町。昔の船着場の近くには金刀比羅神社も祭られています。千種川は上郡町を貫流し、赤穂から海に入り、この美しい川は河口の海にも様々な恵みをもたらしてくれ、早春にはシラウオが遡上し、初夏にはアサリ、そして冬には見事な牡蠣を育ててくれます。折しも十月十四日、西播磨地方に赤穂開拓の祖と言われる秦河勝を祭る大瀬神社のお祭りが行なわれていました。この祭りは瀬戸内海三大渡御祭と言われる国の無形民俗文化財に指定されている船絵巻です。

千種川一本を見てみてもその流域や河口から海へ様々な恵みや歴史を感じることが出来ます。川は雄弁だったと言ったのが感想です。いい川でした。

2002年11月10日発行 通巻543号
昭和32年10月28日 第3種郵便物認可

発行人 兵庫県漁業協同組合連合会
発行所 (株)兵庫県水産振興基金

〒652-3445 神戸市兵庫区中之島2-2-1
TEL 652-3445 定価80円 (本体76円)
FAX 671-6685